

2008 年度 後期

# 東北大学会計大学院アンケート実施報告書

---

*Tohoku University Accounting School*

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設され、本年3月で4年が経過し、これまでに111名の修了生を社会に送り出してきた。

本大学院の設立趣旨は、グローバルな視野と高度な分析能力をもつ職業会計人を養成し、有能な人材を将来にわたり社会へ提供し続けていくことである。本大学院での教育は、公認会計士の資格を取得することが最終的な目標ではなく、会計士として、あるいは企業、官庁などの会計分野のエキスパートとして活躍できる知識と素養、および高い倫理観を体得することである。そのため、我々は社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育に反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを確認しながら、より効果的な教育方法を模索し、常に本大学院での教育サービスの改善に努力する必要がある。その一環として、我々は毎 Semester 終了後に講義内容に関するアンケートを実施してきた。

過去4年間のアンケートについては、「アンケート実施報告書」として本会計大学院のホームページ (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2009a.html>) で公開している。その意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、将来において本大学院の修了生を受け入れて頂く監査法人、会計事務所、企業、官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。我々教員は、この調査報告書の公開により、東北大学会計大学院に対する社会の関心が高まり、本大学院出身の学生が高度な分析能力をもつ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している。我々は、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉え、改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。本アンケート結果について、御意見等を頂ければ幸いである。

昨年本会計大学院は、会計大学院評価機構による認証評価を受け、「認定会計大学院」の称号を得ることができた。会計大学院評価機構の評価基準は、厳しい評価基準であり、本会計大学院が今回の評価において「認定」の評価を得たことは、本会計大学院の教育システムが高い評価を得たものと考えている。今後とも、教育システムを改善し、質の高い教育サービスを提供できるよう努めていきたいと考えている。

2008年は本会計大学院の出身者16名が公認会計士試験に合格し、会計大学院に対する社会的な要請に対しわずかではあるが応えることができた年であった。今後とも多くの修了生が公認会計士試験に合格できるようサポートしていきたいと考えている。最後に、本会計大学院出身者が社会の中で認められ、今後長きにわたり現場の第一線で活躍できることを期待し、これをむすびの言葉とする。

2009年5月13日

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、平成 21 年 1 月 14 日より受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」(巻末資料 1)

②「会計大学院の授業に関するアンケート」(巻末資料 2)

両アンケートともに無記名であり、①は 1 学生につき 1 回限りの回答とした。②は履修者が 5 名以上である全ての講義について実施し(講義担当教員の希望があったものについては、履修者が 5 名未満の場合でも実施)、学生は受講している講義毎に回答を行っている。

本報告では、最初に①のアンケートの集計結果を示し、そこから本会計大学院の教育システム全般に関する分析、問題点の洗い出し、今後の対応などについて述べる。次に、②のアンケート結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。

本報告では、アンケートにより得られたデータを可能な限り数量的・客観的に分析したいと考えている。そこで、①における自由記入欄の内容については、次年度以降にカリキュラム編成を行う際の参考とし、重要と考えられる意見に対してのみ若干のコメントを行いたい。また、②における科目毎のアンケートの集計結果(設問 17 と 18 の自由記入を含む)は、次年度以降の講義の参考となるよう、担当教員に直接報告している。

### 3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

#### 3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2008年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修している「簿記2」（38名）において配布・回答・回収され（履修者数が最も多い科目は「財務諸表」, 「原価計算2」（42名）であるが、これは学部学生の履修者を含んだ数である）、これらの科目を履修していない学生については事務分室で配布・回収を行った。回収数は30であり、会計大学院の在籍学生数に対して半数に満たない数のため、会計大学院全体の動向を反映したものとは言い切れないが、今後のカリキュラム編成の参考材料にはなり得るものとする。

#### 3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、開学当初からの推移を示す。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1は受講者属性を問うものであり、本アンケート回答者はすべて会計大学院学生であった。したがって、本アンケート結果は当会計大学院学生のカリキュラムに対する率直な声を反映しているものとする。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007	2008
適切である	6.67%	11.11%	42.86%	42.00%	32.79%	20.00%
ほぼ適切である	40.00%	11.11%	28.57%	36.00%	34.43%	50.00%
どちらともいえない	20.00%	44.44%	14.29%	16.00%	14.75%	16.67%
やや不適切である	13.33%	0.00%	14.29%	2.00%	11.48%	13.33%
不適切である	20.00%	33.33%	0.00%	4.00%	6.56%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	15	9	7	50	61	30

設問3： Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007	2008
適切である	6.67%	0.00%	42.86%	28.00%	16.67%	10.00%
ほぼ適切である	13.33%	33.33%	14.29%	20.00%	25.00%	30.00%
どちらともいえない	13.33%	11.11%	0.00%	22.00%	26.67%	26.67%
やや不適切である	26.67%	33.33%	42.86%	24.00%	18.33%	26.67%
不適切である	40.00%	22.22%	0.00%	6.00%	13.33%	6.67%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	15	9	7	50	60	30

設問4： オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007	2008
5回以上	13.33%	33.33%	14.29%	6.12%	9.84%	6.67%
4回または3回	6.67%	11.11%	14.29%	14.29%	13.11%	16.67%
2回	33.33%	11.11%	42.86%	16.33%	26.23%	13.33%
1回	26.67%	22.22%	0.00%	14.29%	16.39%	10.00%
利用しなかった	20.00%	22.22%	28.57%	48.98%	34.43%	53.33%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	15	9	7	49	61	30

設問5： Semester開始時の履修指導は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007	2008
役に立った	0.00%	11.11%	14.29%	18.00%	38.33%	30.00%
まあまあ役に立った	13.33%	22.22%	14.29%	32.00%	23.33%	26.67%
どちらともいえない	20.00%	11.11%	0.00%	18.00%	15.00%	23.33%
あまり役に立たなかった	40.00%	22.22%	14.29%	14.00%	10.00%	16.67%
役に立たなかった	26.67%	33.33%	57.14%	18.00%	13.33%	3.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	15	9	7	50	60	30

設問 6：GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007	2008
適切である	0.00%	0.00%	0.00%	14.00%	18.03%	10.00%
ほぼ適切である	13.33%	33.33%	0.00%	16.00%	24.59%	33.33%
どちらともいえない	46.67%	55.56%	71.43%	38.00%	29.51%	36.67%
やや不適切である	0.00%	0.00%	0.00%	16.00%	16.39%	13.33%
不適切である	40.00%	11.11%	28.57%	16.00%	11.48%	6.67%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	15	9	7	50	61	30

設問 7：受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007	2008
5 時間以上	33.33%	11.11%	0.00%	32.65%	35.00%	43.33%
4-5 時間	0.00%	0.00%	0.00%	16.33%	20.00%	20.00%
3-4 時間	26.67%	0.00%	0.00%	8.16%	16.67%	6.67%
1-3 時間	33.33%	44.44%	57.14%	28.57%	15.00%	16.67%
していない	6.67%	44.44%	42.86%	14.29%	13.33%	13.33%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	15	9	7	49	60	30

設問 8：e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007	2008
役に立った	40.00%	55.56%	71.43%	62.50%	56.67%	58.62%
まあまあ役に立った	46.67%	22.22%	28.57%	33.33%	23.33%	41.38%
どちらともいえない	0.00%	11.11%	0.00%	2.08%	15.00%	0.00%
あまり役に立たなかった	13.33%	11.11%	0.00%	2.08%	1.67%	0.00%
役に立たなかった	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.33%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	15	9	7	48	60	29

設問 9：在学中の受験を考えていますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007	2008
考えている	66.67%	55.56%	42.86%	72.92%	67.24%	82.76%
まだ決めていない	13.33%	11.11%	0.00%	4.17%	6.90%	6.90%
考えていない	20.00%	33.33%	57.14%	22.92%	25.86%	10.34%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	15	9	7	48	58	29

設問 10：OB 会について

選択項目	2007	2008
賛成	51.72%	66.67%
反対	6.90%	3.70%
分からない	41.38%	29.63%
計	100%	100%
総数	58	27

### 3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問 2 から 10 の分析結果を基に、特徴が顕著なものについて問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。

設問 2 (基礎, 展開, 実践・応用の科目配置) については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答してもらった。「適切である」および「ほぼ適切である」の合計は 70% となっているものの、「適切である」が 20% に落ち、2007 年度からの下落傾向は続いている。設問の意図を理解した上での結果であると考えられるが、個人面談等の機会にどのような不満を感じているのかを調査し、改善点を探っていきたい。

設問 3 (セメスター間の開設授業科目のバランス) については、「適切である」および「ほぼ適切である」の合計は 40% となっており、過去 2 年と同様、おおかた受け入れられていると解釈して良いだろう。しかし、「やや不適切である」が 27% と 2007 年度よりやや増えており、この点について原因の究明が必要である。

設問 4 (オフィスアワー) については、これまで観察されていた、頻繁に利用する学生、とまったく利用しない学生の二極化の傾向が、今回も観察された。特に、「利用しなかった」学生が半数を超えた点は顕著な特徴である。これまでと同様、講義終了後に質問を済ませてしまうことが多いからと考えられる。講義終了後に行われる質問は、ほとんどが講義内容に直接関係のあるものであろうことが考えられる。本会計大学院には、研究者も実務家教員も在籍している。講義で扱われないことについて、学生たちが教員の話聞いてみたいと思っていることがあるかも知れない。会計大学院における教育を充実させるためには、個人面談のあり方と併せて、オフィスアワーのあり方を模索していくことを考えてもよいかもしれない。

設問 6 (GPA) については、「不適切である」と「やや不適切である」の合計が 20% になり、GPA による成績評価が徐々に受け入れられるようになってきたと言えよう。この設問は、「GPA による能力の評価」について質問しているので、「成績評価は適切か否か」という問題と重複している。

これまでのアンケート結果報告でも触れてきたことだが、GPA が単なる成績評価システムではなく、成績の自己管理のためのシステムであるという点を学生に理解してもらうことが肝心である。今後とも、個人面談等を通じて、この点を学生に理解してもらえよう努力する必要があるだろう。

設問 7 (受験勉強にかかる時間) からは、受験勉強にかかる時間は 2005 年度から増加を、今回のアンケートでは「5 時間以上」が 4 割を初めて超えた。公認会計士試験の受験を予定している学生が多いことを考えれば、これは当然の結果である。しかし、これまでもことあるごとに言ってきたように、会計大学院は会計の専門家として活躍できる人材を育成する場であり、受験勉強の支援をする場ではない。この傾向が一時的なものであるという根拠は見つからず、今後も続くことが予想される。今後とも、個人面談等を通じて情報を収集し、会計大学院の在り方を探っていきたい。

設問 8 (e-mail 等による連絡システム) については、この設問に回答した学生全員が「役に立った」、「まあまあ役に立った」と答え、全体的な傾向は変わっていないと考えられる。これまでと同様に、e-mail と HP による連絡システムの運用は高く評価されていると考えられる。今後とも、講義に関する連絡事項や資料等に加え、公認会計士試験などに関する情報を随時掲示するよう努めたい。

設問 9 (在学中の受験) は、これまでも多くの学生が受験を予定していると答えたが、今年度も 8 割強と多くの学生が在学中の受験を予定している。この結果と設問 7 の「受験のための自主学習時間」についての回答が連動していることは容易に想像がつく。会計大学院のカリキュラムは在学中の受験を想定して作られてはいない。会計大学院としては、開学以来の目的に沿った教育を目指していくつもりである。

#### 4.「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果について

##### 4.1. アンケートの実施状況

2008年度後期における開講講義数は31科目(集中講義含む)であり,そのうち履修者が5名以上の講義(19科目)と科目担当教員がアンケートを希望した講義(2科目)についてアンケートが実施された(計21科目).

授業科目名	履修者数	回収数
財務諸表	42	16
財務諸表分析	24	18
簿記2	38	26
コストマネジメント	11	8
原価計算2	42	31
監査計画の編成法1	25	19
金融論	12	9
情報システム設計	8	8
会社法	27	26
上級監査制度	21	11
内部統制の実務	28	24
消費税法	27	15
ビジネス・プレゼンテーション1	5	7
事例研究(法人税法)	17	15
マクロ経済学	4	4
ミクロ経済学	5	5
国際会計基準	26	21
事例研究1(監査制度)	4	3
公会計	31	16
環太平洋経営事情	5	3
会計職業倫理	23	16
合計	425	301

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり,「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる.

表1: アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは, 延べ履修者数425名に対して301名から回答を得た. アンケートの回収率は70.82%であり, 前回(2008年度前期)の回収率66.43%と比較すると若干改善されている.

なお, 設問17は科目担当教員が独自に行う質問であるので, 本報告書においては特に言及しない.

#### 4.2. アンケート結果の度数分布と基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されている（設問1を除く）ため、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。その結果は以下の通りである。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア
5	62	209	11	14	33	67	135	167	149	138	139	110	146	135	148
4	221	52	7	16	16	142	109	88	87	98	96	95	103	85	81
3	0	17	26	33	42	68	48	32	48	47	55	70	39	48	51
2	9	10	43	46	61	17	6	9	14	12	5	15	6	15	10
1	4	6	99	132	87	4	2	4	1	3	3	8	3	13	6
0	2	6	112	58	57	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	298	300	298	299	296	299	300	300	299	298	298	298	297	296	296
平均値	4.10	4.43	1.16	1.53	1.93	3.83	4.24	4.35	4.23	4.19	4.22	3.95	4.29	4.06	4.20
中央値	4.00	5.00	1.00	1.00	2.00	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.50
最頻値	4	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5

表2：アンケートの基本統計量

#### 所見

設問3～5以外については中央値、最頻値が殆ど5、もしくは4であり、平均値もほぼ全てにおいて4以上を記録しており、これまでと同じ傾向を示している。このことは、会計大学院の講義の質に対して概ね良好な評価がなされていることを示すものと思われるが、設問3～5のような学生の勉強時間に関する設問において、大きく下位に偏った分布となっているのは好ましくない。また、設問2の回答結果から、出席率の高いことが判断できるが、これは極端な言い方をすれば、「出席をする努力は厭わないが、予習・復習などに時間を掛けることを怠っている。」と推測できる。

### 4.3. 設問間の相関

各設問間の相関関係を表す相関係数は下表の通りである。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア
1 属性	1.00														
2 出席	-.03	1.00													
3 予習	.02	.01	1.00												
4 復習	.07	-.06	.73	1.00											
5 宿題	.11	-.04	.52	.55	1.00										
6 理解	.08	.08	.15	.14	.09	1.00									
7 難易度	.09	.13	.13	.13	.18	.54	1.00								
8 教員準備	.06	.17	.08	.07	.16	.36	.58	1.00							
9 プレゼン	.06	.14	.15	.08	.14	.38	.55	.80	1.00						
10 教材	.01	.11	.10	.08	.13	.41	.62	.77	.73	1.00					
11 評価方法	.15	.14	.04	.04	.09	.40	.51	.60	.56	.67	1.00				
12 シラバス	.04	.11	.13	.16	.17	.37	.46	.63	.54	.62	.59	1.00			
13 教員評価	.12	.18	.08	.07	.15	.43	.60	.80	.76	.76	.71	.66	1.00		
14 対試験	.17	.07	.19	.22	.28	.32	.47	.52	.49	.52	.58	.47	.62	1.00	
15 キャリア	.10	.14	.05	.08	.17	.22	.48	.63	.54	.57	.55	.51	.66	.64	1.00

表3：質問項目間の相関係数

#### 所見

- ・設問3「予習」、設問4「復習」、設問5「宿題」間の各組合せについて、相関係数が0.5以上となっている。自主的に学習を行う学生は、予習・復習・宿題をバランスよく行っていると考えられる。また、「予習」と「復習」に限って言えば、その値は0.73と非常に高い相関を示している。
- ・設問6「理解」と設問3「予習」、設問4「復習」、設問5「宿題」各々との間の相関係数が0.2に満たない。これは予習・復習・宿題への取り組みが理解度に反映されていないと読み取ることができるが、本来、十分な自主学習が行われていれば理解も深まるはずであり、少々気になるところである。
- ・設問6「理解」と設問8「教員準備」～設問13「教員評価」の各設問間の相関係数は、絶対的に高い値ではないが、相対的に中程度の相関を示している。教員の講義への取り組みが、学生の理解度に関係していると考えられる。
- ・設問7「難易度」～設問15「キャリア」間の各組合せについて、その殆どで相関係数が0.5以上となっており、なかでも設問8「教員準備」と各設問間の相関係数は高いところで0.8を示している。我々教員の立場からすれば、難易度を含めた教材選択の良し悪し、講義の進め方や評価方法が各教員の評価に直結しているということを改めて認識させられる。

#### 4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、開学当初からの推移を示す。なお、2008年度後期のアンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
公認会計士コース（2年）								20.95%
公認会計士コース（1年）	69.54%	88.41%	82.11%	92.79%	93.01%	93.55%	89.78%	74.66%
高度会計職業人コース	9.20%	4.88%	5.96%	2.40%	0.24%	0.00%	0.54%	0.00%
経済経営学専攻	14.94%	3.66%	4.59%	3.61%	1.93%	3.46%	3.49%	3.04%
経済学部	6.32%	3.05%	7.34%	1.20%	4.82%	3.00%	6.18%	1.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	174	164	218	416	415	434	372	296

注）集中講義科目においては、公認会計士コースの履修者を「公認会計士コース（1年）」として集計している。

設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
90% 以上	84.66%	85.28%	91.93%	85.92%	88.78%	83.26%	85.29%	71.09%
89-70%	9.66%	7.98%	4.04%	9.55%	7.40%	8.94%	8.29%	17.69%
69-50%	3.41%	1.84%	1.79%	1.91%	0.95%	4.13%	2.67%	5.78%
49-20%	0.57%	1.84%	0.90%	0.72%	1.43%	0.92%	1.87%	3.40%
20%未滿	1.70%	3.07%	1.35%	1.91%	1.43%	2.75%	1.34%	1.35%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	176	163	223	419	419	436	374	294

設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
5時間以上	2.86%	2.45%	1.79%	5.46%	1.66%	2.52%	4.05%	3.69%
4-5時間	2.29%	4.29%	1.79%	4.04%	1.19%	1.60%	2.43%	2.35%
3-4時間	7.43%	6.75%	2.69%	6.41%	4.28%	4.58%	6.76%	8.72%
2-3時間	9.71%	12.88%	17.94%	13.78%	14.25%	10.76%	17.30%	14.43%
1-2時間	25.14%	28.22%	22.42%	26.13%	34.44%	41.88%	34.86%	33.22%
1時間未滿	52.57%	45.40%	53.36%	44.18%	44.18%	38.67%	34.59%	37.58%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	175	163	223	421	421	437	370	298

設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
5時間以上	7.43%	3.70%	2.25%	6.44%	4.75%	4.79%	4.29%	4.68%
4-5時間	4.00%	4.32%	4.95%	4.06%	4.51%	2.74%	2.95%	5.35%
3-4時間	8.00%	9.88%	6.76%	7.64%	7.84%	9.59%	12.33%	11.04%
2-3時間	23.43%	16.67%	20.27%	22.20%	24.23%	22.37%	18.23%	15.38%
1-2時間	37.14%	38.27%	35.59%	36.04%	33.73%	40.41%	41.02%	44.15%
1時間未滿	20.00%	27.16%	30.18%	23.63%	24.94%	20.09%	21.18%	19.40%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	175	162	222	419	421	438	373	299

設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
5時間以上	27.17%	13.94%	10.36%	13.14%	8.15%	8.08%	8.74%	11.15%
4-5時間	12.14%	9.70%	7.66%	5.60%	9.35%	6.24%	5.74%	5.41%
3-4時間	13.87%	9.09%	12.16%	10.22%	10.55%	10.85%	12.02%	14.19%
2-3時間	21.39%	21.82%	17.12%	17.27%	19.18%	18.48%	21.58%	20.61%
1-2時間	10.98%	16.97%	31.53%	21.65%	27.58%	29.56%	33.61%	29.39%
1時間未滿	14.45%	28.48%	21.17%	32.12%	25.18%	26.79%	18.31%	19.26%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	173	165	222	411	417	433	366	296

設問 6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
理解できた	16.95%	15.76%	23.66%	21.85%	18.48%	19.82%	24.18%	22.48%
ほぼ理解できた	50.85%	50.91%	52.68%	57.48%	50.71%	52.16%	51.36%	47.65%
どちらともいえない	17.51%	19.39%	19.20%	16.39%	22.99%	21.64%	18.21%	22.82%
あまり理解できなかった	7.34%	8.48%	3.57%	3.56%	6.40%	5.92%	4.08%	5.70%
理解できなかった	7.34%	5.45%	0.89%	0.71%	1.42%	0.46%	2.17%	1.34%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	177	165	224	421	422	439	368	298

設問 7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
適切	40.11%	35.76%	45.29%	50.24%	51.67%	53.86%	56.84%	45.00%
ほぼ適切	31.07%	32.12%	38.12%	33.33%	27.27%	31.36%	29.22%	36.33%
どちらともいえない	15.25%	16.97%	13.00%	13.81%	17.22%	12.27%	11.26%	16.00%
やや不適切	6.78%	8.48%	2.69%	1.43%	3.11%	1.14%	1.61%	2.00%
不適切	6.78%	6.67%	0.90%	1.19%	0.72%	1.36%	1.07%	0.67%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	177	165	223	420	418	440	373	300

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
十分	53.67%	50.30%	63.84%	60.43%	66.67%	67.05%	65.59%	55.67%
ほぼ十分	23.16%	29.70%	25.89%	27.01%	21.43%	18.08%	20.43%	29.33%
どちらともいえない	11.30%	12.73%	7.59%	7.82%	8.10%	8.92%	7.80%	10.67%
やや不十分	6.21%	2.42%	2.23%	3.08%	2.14%	4.58%	2.42%	3.00%
不十分	5.65%	4.85%	0.45%	1.66%	1.67%	1.37%	3.76%	1.33%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	177	165	224	422	420	437	372	300

設問 9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
良かった	55.68%	42.42%	59.82%	45.73%	60.57%	59.13%	61.29%	49.83%
まあまあ良かった	21.59%	28.48%	25.89%	33.41%	19.71%	21.00%	22.58%	29.10%
どちらともいえない	9.66%	13.94%	8.48%	12.56%	10.45%	11.42%	9.14%	16.05%
やや悪かった	7.39%	5.45%	3.57%	5.45%	5.46%	5.94%	4.57%	4.68%
悪かった	5.68%	9.70%	2.23%	2.84%	3.80%	2.51%	2.42%	0.33%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	176	165	224	422	421	438	372	299

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
適切	46.02%	46.34%	54.71%	48.09%	51.31%	58.58%	54.84%	46.31%
ほぼ適切	25.00%	28.66%	30.49%	33.49%	28.50%	23.57%	25.54%	32.89%
どちらともいえない	14.77%	13.41%	9.87%	12.44%	14.96%	11.67%	12.10%	15.77%
やや不適切	6.25%	4.27%	3.59%	3.59%	3.33%	3.89%	5.65%	4.03%
不適切	7.95%	7.32%	1.35%	2.39%	1.90%	2.29%	1.88%	1.01%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	176	164	223	418	421	437	372	298

設問 11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
適切	40.11%	35.37%	44.20%	40.57%	56.06%	57.08%	58.76%	46.64%
ほぼ適切	26.55%	35.98%	36.16%	34.61%	28.74%	29.45%	26.42%	32.21%
どちらともいえない	19.77%	15.24%	16.07%	20.76%	10.69%	10.05%	11.59%	18.46%
やや不適切	6.21%	8.54%	1.79%	2.39%	2.38%	2.74%	2.16%	1.68%
不適切	7.34%	4.88%	1.79%	1.67%	2.14%	0.68%	1.08%	1.01%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	177	164	224	419	421	438	371	298

設問 12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
役に立った	19.32%	24.24%	33.93%	29.59%	36.58%	37.67%	37.74%	36.91%
まあまあ役に立った	27.27%	21.82%	33.48%	34.61%	29.69%	30.59%	31.54%	31.88%
どちらともいえない	29.55%	32.12%	24.55%	28.16%	24.94%	21.00%	24.26%	23.49%
あまり役に立たなかった	14.20%	11.52%	6.25%	4.53%	5.23%	7.08%	2.43%	5.03%
役に立たなかった	9.66%	10.30%	1.79%	3.10%	3.56%	3.65%	4.04%	2.68%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	176	165	224	419	421	438	371	298

設問 13：総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
評価できる	53.67%	44.85%	57.40%	56.97%	64.13%	61.87%	65.05%	49.16%
まあまあ評価できる	24.29%	32.12%	29.15%	32.45%	23.28%	24.20%	22.31%	34.68%
どちらともいえない	10.17%	10.30%	10.31%	6.01%	7.13%	9.36%	6.45%	13.13%
あまり評価できない	5.08%	6.67%	2.24%	3.13%	4.04%	2.97%	4.30%	2.02%
評価できない	6.78%	6.06%	0.90%	1.44%	1.43%	1.60%	1.88%	1.01%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	177	165	223	416	421	438	372	297

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
役立つ	30.29%	32.28%	41.18%	41.26%	44.87%	43.58%	45.53%	45.61%
まあまあ役に立つ	24.57%	29.11%	34.39%	30.34%	29.59%	25.23%	27.91%	28.72%
どちらともいえない	20.00%	20.25%	14.93%	19.66%	18.62%	21.10%	19.51%	16.22%
あまり役に立たない	8.57%	10.76%	5.88%	4.61%	4.77%	5.05%	4.61%	5.07%
役に立たない	16.57%	7.59%	3.62%	4.13%	2.15%	5.05%	2.44%	4.39%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	175	158	221	412	419	436	369	296

設問 15：この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか。

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期
役立つ	42.44%	43.40%	49.25%	52.16%	48.67%	56.75%	45.26%	50.00%
まあまあ役に立つ	29.07%	28.30%	30.85%	28.75%	28.09%	21.51%	27.64%	27.36%
どちらともいえない	19.19%	14.47%	16.42%	15.78%	19.85%	16.93%	21.41%	17.23%
あまり役に立たない	2.91%	7.55%	1.00%	2.29%	2.66%	2.52%	3.25%	3.38%
役に立たない	6.40%	6.29%	2.49%	1.02%	0.73%	2.29%	2.44%	2.03%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	172	159	201	393	413	437	369	296

#### 4.5. 自己評価と今後の課題

##### ・学生の学習（設問 2～5）について

設問 3～5 の集計結果はこれまでの傾向と特段変わりはない。喜ばしいことではないが、会計大学院学生が予習、復習、宿題などの会計大学院向けの勉強を行う時間が、我々が標準的であろうと考えている時間数に対し、大きく下回っているという実情である。講義に臨む際の準備や復習は、科目によってその方法、必要時間数は異なるが、講義内容に直接関係する事項だけではなく、そこから波及する様々な事柄について貪欲に吸収するような充実した勉強を行って頂きたい。学生諸君には、開学時より強く説明してきたことではあるが、本会計大学院は決して公認会計士試験の準備対策だけを目的としたものではなく、会計士試験を突破した後のキャリアを見据えた教育を行っています。会計士試験のための勉強に時間を割きたいことに一定の理解はできるが、学生諸君には試験向けの知識だけではない、本質的な部分を理解できるような努力を願う。これらの点に関しては、学生諸君に理解してもらえよう、今後も個人面談などを通じて意識改善を促してゆく必要がある。

設問 2 の集計結果については、これまでの傾向から若干の変化があった。「90%以上」と回答した学生の比率が、今年度前期には 85.29% であり、これまでの最低でも 83.26% と非常に高い値を示していた。しかし今期に限っては 71.09% という結果になっている。アンケート実施回におけるバラツキと片付けるには少々大きな変化で、速やかに好転することを願っている。

##### ・教員への評価（設問 6～13）について

教員への評価については、これまで概ね良好なものであったが、今期についてはその印象がやや悪化しており、何点か触れておく。設問 7～11 の集計結果においては、これまでの傾向から同じような変化を示している。すなわち、何れの設問においても、回答選択肢の上位 2 つの項目で全体の 80% ほどを占めており、この点についてはこれまでとは変化はないが、最上位の回答比率が非常に低水準にあり、最近に限って見れば最低となるものも多い。設問 13 のような教員を直接評価する項目においては、「評価できる」と回答した者が 49.16% と、2005 年後期以来の 50% を切る低水準である。上位 2 項目で 80% を超えているとはいえ、教員の講義に取り組む姿勢や、教員の直接的な評価はこれまで順調に改善されてきただけに、今回の結果については非常に残念なものとなった。この点については、FD などの場において全教員が認識し、今期の反省を含め活発に意見交換を行い、来期への改善に向けた努力を行いたい。

シラバスについては、個人面談を行った際の情報を元にすれば、履修科目の選択には役立っているようであるが、設問 12 の回答結果を見るに、講義内容の理解には必ずしも有効なものとなっていないようである。この回答結果はこれまでの傾向と変わらないものであるため、根本的にシラバスの有り方、構成などを再検討する必要があるのかもしれない。

#### 5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」、および「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄について、授業に関するものは科目担当教員による回答が必要であり、ここでは特にコメントしないが、寄せられた意見は確実に担当教員へ報告しており、改善すべき点は改善を行うようお願いしている。ここでは、カリキュラム等に関するものに対してのみ言及する。

今回のアンケートでも、学生諸君から様々な要望を受けているが、その中でも、「会社法関連科目の充実」が多かったので、以下でコメントする。

会計大学院の教育目的は、公認会計士試験に合格するために知識を教えることではなく、会計職業人と

して長きにわたり第一線で活躍できるような人材を養成することである。この目的に鑑み、会社法については、2008年度後期より、「会社法（2単位）」に加えて「上級会社法（2単位）」が新たに開講したが、残念ながら、「上級会社法」の受講生は非常に少ないのが現状である。会社法について幅広い知識を習得するために「上級会社法」を受講していただくことを希望する。なお、会社法関連の講義については、今後、講義の内容を含め検討していきたいと考えている。

法律関連の講義については、民法関連科目の開講を望む声もあった。この点に関しては、希望者が多くなれば対応を考えていきたい。

少数意見ではあるが、国際的に活躍できる職業会計人を要請するという本会計大学院の目的に関連して、USCPAに関連する科目の開設などの希望もあった。現状ではすぐに対応することは難しいが、希望者が多くなれば対応を考えていきたい。

上記の点に関連して、従来夏期集中講義で開講していた「国際会計基準」を今年度から後期毎週の開講とした。国際会計関連の科目は非常に重要であり、将来会計士を目指す人にとっては必須の知識である。国際化に対応できるよう、今後できるだけ早く国際会計関連科目の充実を図りたいと考えている。

上記以外についても、実務家教員のオムニバス形式の講義を望むものなど、いくつかの意見が出ていた。要望以外については、実務家教員による講義や、事例研究科目の評価が高く、ケースを扱った講義の評価が高い傾向が見られた。関心の高さは吸収の早さにつながるであろうから、こうした科目のさらなる充実に努めていきたい。

ここでは、アンケートに書かれたすべての意見を取り上げることはできなかったが、多くの学生が望むことについては今後とも積極的に取り上げ、改善していきたいと考えている。今後行われるアンケートにおいても、会計大学院に対する要望・希望等を積極的に行って頂くことを切望する。

巻末資料

資料1：2008年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

資料2：2008年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

資料3：2008年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

資料4：2008年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

資料1：2008年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2008年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 高度会計職業人コース

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
3	セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (2) 1回 (4) 4回または3回 (1) 利用しなかった (3) 2回
5	セメスター開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
6	本大学院で成績評価に用いている GPA は、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (2) 1-3時間 (4) 4-5時間 (1) していない (3) 3-4時間
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体として e-mail, HP を用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院 OB 会を組織したいと考えています。OB 会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない <特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。>
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料2：2008年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2008年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 高度会計職業人コース

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5)90% 以上 (4)89-70% (3)69-50% (2)49-20% (1)20% 未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5)5 時間以上 (4)4-5 時間 (3)3-4 時間 (2)2-3 時間 (1)1-2 時間 (0)1 時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5)5 時間以上 (4)4-5 時間 (3)3-4 時間 (2)2-3 時間 (1)1-2 時間 (0)1 時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5)5 時間以上 (4)4-5 時間 (3)3-4 時間 (2)2-3 時間 (1)1-2 時間 (0)1 時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 (4) 公認会計士短答式 (3) 日商簿記1級 (2) 日商簿記2級 (1) その他	複数回答可能です。
17	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
18	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2008年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース（2年）	9	30.00%
	公認会計士コース（1年）	21	70.00%
	高度会計職業人コース	0	0.00%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	0	0.00%
	合計	30	100.00%
設問2 基礎、展開、実践・応用の 科目配置は適切だと思いますか。	適切である	6	20.00%
	ほぼ適切である	15	50.00%
	どちらともいえない	5	16.67%
	やや不適切である	4	13.33%
	不適切である	0	0.00%
	合計	30	100.00%
設問3 Semester間の開設授業科目の バランスは適切だと思いますか。	適切である	3	10.00%
	ほぼ適切である	9	30.00%
	どちらともいえない	8	26.67%
	やや不適切である	8	26.67%
	不適切である	2	6.67%
	合計	30	100.00%
設問4 オフィスアワーを利用して 教員に履修相談・質問等を行 った回数は。	5回以上	2	6.67%
	4回または3回	5	16.67%
	2回	4	13.33%
	1回	3	10.00%
	利用しなかった	16	53.33%
	合計	30	100.00%
設問5 Semester開始時の個人面談は、 学習計画を立てる上で役に立 ちましたか。	役に立った	9	30.00%
	まあまあ役に立った	8	26.67%
	どちらともいえない	7	23.33%
	あまり役に立たなかった	5	16.67%
	役に立たなかった	1	3.33%
	合計	30	100.00%
設問6 GPAによって学生の能力は適切 に評価できると思いますか。	適切である	3	10.00%
	ほぼ適切である	10	33.33%
	どちらともいえない	11	36.67%
	やや不適切である	4	13.33%
	不適切である	2	6.67%
	合計	30	100.00%
設問7 受験のための自主学習には1日 平均何時間くらいかけています か。	5時間以上	13	43.33%
	4-5時間	6	20.00%
	3-4時間	2	6.67%
	1-3時間	5	16.67%
	していない	4	13.33%
	合計	30	100.00%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡シ ステムは役に立ちましたか。	役に立った	17	58.62%
	まあまあ役に立った	12	41.38%
	どちらともいえない	0	0.00%
	あまり役に立たなかった	0	0.00%
	役に立たなかった	0	0.00%
	合計	29	100.00%
設問9 在学中の受験を考えています か。	考えている	24	82.76%
	まだ決めていない	2	6.90%
	考えていない	3	10.34%
	合計	29	100.00%
設問10 OB会について	賛成	18	66.67%
	反対	1	3.70%
	分からない	8	29.63%
	合計	27	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

資料4：2008年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	62	20.95%
	公認会計士コース(1年)	221	74.66%
	高度会計職業人コース	0	0.00%
	経済経営学専攻	9	3.04%
	経済学部	4	1.35%
	合計	296	100.00%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	209	71.09%
	89-70%	52	17.69%
	69-50%	17	5.78%
	49-20%	10	3.40%
	20%未満	6	2.04%
	合計	294	100.00%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	11	3.69%
	4-5時間	7	2.35%
	3-4時間	26	8.72%
	2-3時間	43	14.43%
	1-2時間	99	33.22%
	1時間未満	112	37.58%
	合計	298	100.00%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	14	4.68%
	4-5時間	16	5.35%
	3-4時間	33	11.04%
	2-3時間	46	15.38%
	1-2時間	132	44.15%
	1時間未満	58	19.40%
	合計	299	100.00%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	33	11.15%
	4-5時間	16	5.41%
	3-4時間	42	14.19%
	2-3時間	61	20.61%
	1-2時間	87	29.39%
	1時間未満	57	19.26%
	合計	296	100.00%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと感じますか。	理解できた	67	22.48%
	ほぼ理解できた	142	47.65%
	どちらともいえない	68	22.82%
	あまり理解できなかった	17	5.70%
	理解できなかった	4	1.34%
	合計	298	100.00%
設問7 この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	135	45.00%
	ほぼ適切	109	36.33%
	どちらともいえない	48	16.00%
	やや不適切	6	2.00%
	不適切	2	0.67%
	合計	300	100.00%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	167	55.67%
	ほぼ十分	88	29.33%
	どちらともいえない	32	10.67%
	やや不十分	9	3.00%
	不十分	4	1.33%
	合計	300	100.00%

	選択項目	人数	割合
設問9 教員の説明や声など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。	十分	149	49.83%
	ほぼ十分	87	29.10%
	どちらともいえない	48	16.05%
	やや不十分	14	4.68%
	不十分	1	0.33%
	合計	299	100.00%
設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	138	46.31%
	ほぼ適切	98	32.89%
	どちらともいえない	47	15.77%
	やや不適切	12	4.03%
	不適切	3	1.01%
	合計	298	100.00%
設問11 この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。	適切	139	46.64%
	ほぼ適切	96	32.21%
	どちらともいえない	55	18.46%
	やや不適切	5	1.68%
	不適切	3	1.01%
	合計	298	100.00%
設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	110	36.91%
	まあまあ役に立った	95	31.88%
	どちらともいえない	70	23.49%
	あまり役に立たなかった	15	5.03%
	役に立たなかった	8	2.68%
	合計	298	100.00%
設問13 総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。	評価できる	146	49.16%
	まあまあ評価できる	103	34.68%
	どちらともいえない	39	13.13%
	あまり評価できない	6	2.02%
	評価できない	3	1.01%
	合計	297	100.00%
設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	135	45.61%
	まあまあ役に立つ	85	28.72%
	どちらともいえない	48	16.22%
	あまり役に立たない	15	5.07%
	役に立たない	13	4.39%
	合計	296	100.00%
設問15 この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか。	役立つ	148	50.00%
	まあまあ役に立つ	81	27.36%
	どちらともいえない	51	17.23%
	あまり役に立たない	10	3.38%
	役に立たない	6	2.03%
	合計	296	100.00%
設問16 既に合格した資格試験等について教えてください。	税理士会計科目	6	2.67%
	公認会計士短答式	9	4.00%
	日商簿記1級	36	16.00%
	日商簿記2級	130	57.78%
	日商簿記3級	44	19.56%
	合計	225	100.00%

注1) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

注2) 設問1の回答者属性において、集中講義科目については前期実施のアンケート書式を利用しているため、本集計結果においては、便宜上、公認会計士コースの全回答者を「公認会計士コース(1年)」として集計しております。

## 2008 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	青木 雅明
委員	伊藤 健
委員	榎本 正博
委員	松田 康弘
委員	安田 一彦

会計大学院アンケート実施報告書 2008 年度後期

2009 年 5 月 13 日発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会